

## 近代の姫路

日本は 1871 年に藩を廃止し、県という近代制度と置き換えた。姫路は飾磨県(現在の兵庫の一部)の行政所在地となり、城の三の丸の居住区域は政府の役所に変えられた。1873 年に徴兵義務が導入され、城は軍事基地、つまり帝国陸軍第 10 連隊の本拠地となった。正門前の地区は、かつては武士の屋敷が占拠していたが、閲兵の敷地に代えられ兵舎や他の施設が敷地内に建てられた。さらに多くの施設が 1898 年に追加陸軍部隊を宿泊させるために城とその取り囲む町に加えられた。武士と将軍の時代は終わったかもしれないが、姫路は重要な軍部の中心のまま残った。

## 新しい脅威と保存の努力

封建制度の終わりが城に難問を生み出した。放置したことで歴史的建物に悪影響が出、そして軍部による修理作業は資金不足で妨げられた。ついに 1930 年代になり、政府は大規模な改修を認めた。まもなく第二次世界大戦がその企画を中断させた。新たな脅威をもたらしたのだ。アメリカの爆撃が 1945 年姫路の町を破壊した。だが城はほぼ無傷で逃れた。1950 年の城の改修作業再開とともに町の再建設も進み、1964 年に完成された。その企画の一部として、天守閣は完全に解体され、修理され再び組み立てられた。

## 崩れかけた物見櫓

徳川幕府(1603-1868)の下で、姫路の君主たちは城を維持する責任を負っていた。封建時代の終わりに彼らが立ち去ると放置と荒廃の時代に入った。天守閣の近くにあるこの物見櫓のような建物はほとんど崩壊する寸前まで悪化し、それで明治時代(1868-1912)に最初の修復を促すこととなった。

## 城南パレードの敷地

かつて武士が住んでいた城の正門の前の区域は帝国陸軍が行進する敷地への道を作るために更地にされた。

## 第二次世界大戦の空襲

姫路の町は 1945 年の空襲で激しい被害を受けたが、城はほとんど被害を受けずに生

き残った。また城に焼夷弾が落ちたが爆発しなかったという地元の話がある。

### **覆い隠された城**

天守閣はアメリカの空襲から守るためにネットで覆われた。

### **折れてしまった代替の柱**

城の修理に必要な大量の木材を調達することは決して簡単ではなかった。要塞の主要な柱の一つを取り替えることになっていた木の幹が、日本アルプスの木曾山脈から運ばれている間に折れてしまった。

### **天守閣から取り除かれたシャチホコ**

シャチは日本の城の屋根に飾られる神話上の魚に似た生き物であり、それらは火事や他の脅威から建物を守ると信じられていた。姫路のシャチホコは 1950 年代に修理のため天守閣が解体されたときに撤去・交換された。